

半兵衛の兵法書寄贈

大垣西濃信金 古戦場記念館に全巻

大垣西濃信用金庫は21日、不破郡関ヶ原町関ヶ原の岐阜関ヶ原古戦場記念館に、戦国時代の軍師、竹中半兵衛の兵法を伝える古文書「軍法極秘伝書」全7巻を寄贈した。

半兵衛は隣接する同郡垂井町に拠点を置いた戦国武将で、記念館から地元ゆかりのある歴史的資料の収集に協力を求められたことから同金庫が購入して寄贈した。記念館では研究に活用するほか、一般公開もする。初公開は、10月からの半兵衛らをテーマにした企画展の予定。

古文書は1650年に刊行され、中国の兵法書「孫子」などに記載のある古来からの軍法を吟味し、合戦での陣形や戦道具の使い方を図入りで載せている。記念館によると全巻そろったものは貴重だという。

この日、記念館で寄贈式を開催。栗田順公理事長が小和田哲男館長に古文書を手渡し、小和田館長が知事



感謝状を手にする栗田順公理事長(右)と「軍法極秘伝書」を手にする小和田哲男館長＝不破郡関ヶ原町関ヶ原、岐阜関ヶ原古戦場記念館

感謝状を栗田理事長に手渡した。栗田理事長は「新型コロナウイルススワクチンの接種が進んできている。これから情報発信をして来館者が増えるお手伝いをしたい」と述べ、小和田館長は「大事に保存活用を考えていく。地元企業のご協力をいただきながら今後も資料を増やしたい」と話した。

(鈴木隆宏)